

6 6年の実践例

(1) はじめに

6年生は、男子11名、女子23名、計34名である。算数に対する取り組みもよく、意識も高い。算数の授業においては5年生のころより問題を単に解くだけでなく、その過程を大事にする積み重ねがあり、自分の考えだけでなく、友達の考えの中から新しい解法に気づいたりすることができる。今回の授業でも、いろいろな考えの中から分かりやすい方法を児童の中から引き出せたらと考えた。アイテムの取り組みは宿題と授業の中で取り扱っており、今回の課題もアイテムの問題をベースに考えた。アイテムの問題を扱うことにその教材に対する興味がさらに深められると考えた。

(2) 授業の実践

授業の視点

児童にとってイメージしにくい立方体の展開図であっても、組み立てた時に重なり合う辺と辺に着目し面を移動することによって、十字型の展開図にして課題解決ができるであろう。また、この活動を通して、平面図から空間図形のイメージをふくらませることができるであろう。

① 単元名「直方体と立方体」

② 本時の学習

(ア) ねらい

立方体の展開図において、展開したときに重なり合う辺と辺に着目し、展開図をわかりやすく変化させるを通し、空間概念のイメージをふくらませる。

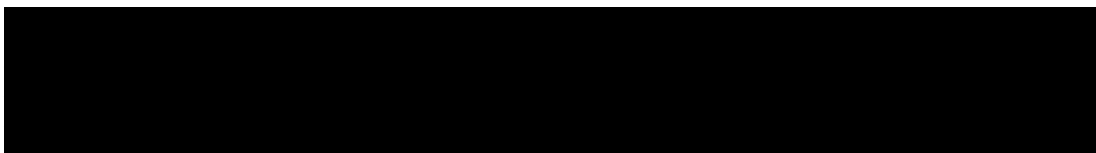
(イ) 評価の観点



重なり合う辺と辺に着目し、6枚の正方形を色々動かしながら解こうとしている。

(関心・意欲・態度)

(ウ) 展開

学習活動	時間 (分)	学習活動への支援及び留意点		評価項目												
		T 1	T 2													
1. 課題をつかもう。	5	・ 本時の課題を伝える。	・ 課題プリントの配布	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>2</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1				2	3					
	1															
	2	3														
<p>立方体の形のさいころの展開図があります。このさいころでは、<u>向かい合った面</u>に書かれている数の和が、7になります。<u>数の書かれていない面</u>に、あてはまる数を書きましょう。 (課題のポイント)</p>																
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題のポイントをおさえる。 ・ プリントA (表側) の1問目をするよう指示する。続きの問題もしてよいこととする。 (めやす: 2分) 	・ 机間指導にまわり、児童の補助に入る。													



学習活動	時間 (分)	学習活動への支援及び留意点		評価項目
		T 1	T 2	
2、課題に取り 組もう。 (プリント A)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 問目の答えの確認をして、課題をしっかりとつかんでいるか確認する。 ・ プリント A (表側) をやることを指示する。 ・ 手間取っている児童には正方形カードを貸し出す。 ・ プリント A が終わった児童は、プリント B (裏側) もしていいことを告げる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ プリント A と同じ問題を黒板に貼っておく。 ・ 机間指導にまわり、児童の補助に入る。 	
				
3、確認しよう。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒板に掲示してある問題に答えを書きいれていく。 	
4、考えを深めよう。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのようにすれば、問題が簡単に解けるのか、児童に考えさせる。 ・ 答えを見て気がついたことなどを発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面を移動させる考え方の解説を行う。 	
5、課題に取り 組もう。 (プリント B)	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深めた考えを生かして、班で課題 B に取り組ませる。 ・ 班の誰が指名されても説明できるようになったら、教師に伝えるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導にまわり、班の補助に入る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重なり合う辺と辺に着目し、6 枚の正方形を色々動かしながら解こうとしている。(観察)
6、発展的な課題に取り 組んでみよう。	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深めた考えを生かして発展的な課題を班で取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導にまわり、班の補助に入る。 	

(3) まとめ

- ・ 班で意見交換しているうちに、児童の中で理解が深まっていく様子があった。
- ・ 展開図において、辺と辺を意識させることは児童にとって難しい展開図を理解しやすくする一つの視点だと実感した。

(4) 今後の課題

- ・ 答えが出ていても、説明することはなかなか難しく、表現が苦手な児童には班での話し合いがやはり難しい。また、グループにするとクラスとしての内容の深まりがない。今後はグループでの話し合いを、いかにクラスで共有していくかということが課題である。